



リトアニア

p.77-102

武藤 嵩明

守備隊に適応：青天のへきれき

1. 相互援助条約調印(1939年10月11日)後
 - a) ナウヤ・ビリニャ(ビリニユス北東方の郊外町)他にソ連守備隊配置
毎日多くの問題が発生
→双方迅速に満足に解決
理由：双方善意をもって履行

b) リトアニア人の心情

ア) ソ連が条約第七条(内政不干渉の原則)を遵守

→ リトアニア市民・政府は懐疑的

イ) ソ連政府代表との会談を希望

理由：両国関係の先行き追求のため

2. ソ連政府の非難と軍人失踪の調査

a) ソ連の申入れ

ア) ソ連兵士失踪→リトアニアに疑惑

イ) ソ連側→軍人搜索を要求

ウ)リトアニア側拒否→別個の措置



実情： i)根も葉もない挑発的非難
ii)具体的根拠、指図無

b)リトアニア側の捜査

ア)国防省と内相に類似事件調査を委託
イ)ソ連政府に情報提供を要請



結果： i)類似事件皆無
ii)ソ連側、資料提供の意向無

3. リトアニアによる特別委員会設置

a) ソ連に報告

理由： i) 情報提供を要請

ii) ソ連守備隊の代表参加を提案



結果：ソ連、搜索・調査をサボタージュ

b) ソ連兵士発見

ソ連守備隊司令部から要請

→リトアニア警察が発見→ソ連兵自決

4. 結論：ソ連の目的が不明

ソ連による最後通牒、占領

1. モスクワ派遣(1940年6月7日)
 - a) リトアニア政府、モスクワへ代表団を派遣
 - ア) ソ連の要求の明確化を要望
 - 外相をモスクワへ派遣決定
 - イ) ポズドニャコフソ連公使に通知
 - 数日後→モロトフソ連外相、
 - リトアニア首相と会談希望

b)モロトフとの会見(1940年6月7日~12日)

ア)リトアニア首相、モスクワ到着

→モロトフと会見

結果：モロトフが新たな非難を発言



まったくのでっち上げ

イ)外相派遣

理由：首相補佐のため

i)相互の誠実

ii)条約関係

→モロトフに説明→無視

c)別口の模索

理由：理にかなった説明収集のため

ア)デカノーゾフ外務次官と会談

→政府が取決め中と回答

イ)カリーニン幹部会議長に親書を呈出

→デカノーゾフと同様の回答

2. モロトフソ連外相の申入れ(1940年6月14日)

a)リトアニアへの最後通牒

議論も論議も不許可→絶対的な要求

趣旨：ソ連が武力によって占領

b) 最後通牒の内容

ア) 第一部：非難の箇条

i) ソ連軍人誘拐

ii) ラトビア、エストニアと軍事同盟
に参加

イ) 第二部：要求

i) 内相、政治警察局長を出廷

ii) 相互援助条約の誠実な実施

iii) リトアニア領での軍の自由通行

3. 最後通牒、受諾(1940年6月15日)

a) リトアニアの回答

カウナスに電話→管理法制局長が対応

結果→受諾

理由：受諾拒否の場合も事態は不変

4. 結論

リトアニアに選択肢は皆無



ソ連への併合が不可避